

令和2年12月吉日

各位

「ビフィズス菌研究会」設立発起人

大澤 朗（神戸大学大学院農学研究科 教授）

片山 高嶺（京都大学大学院生命科学研究科 教授）

「ビフィズス菌研究会」の設立と設立記念シンポジウムの開催
趣意書

謹啓

師走の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ビフィズス菌の持つ生命科学的な魅力とは、今から100年以上もまえにアンリ・ティシエ先生が明らかにされた「ヒトの乳児の腸内細菌叢でビフィズス菌が優勢となること」、そして約半世紀前に光岡知足先生が明らかにされた「長寿村のヒトの腸内細菌叢にビフィズス菌数が有意に高いこと」が挙げられるかと思えます。特に前者の所見においては、母乳の中に乳児にも利用できない、もっぱらビフィズス菌しか利用できない、オリゴ糖が含まれていることも明らかとなり、私たちはそこに大いなる「意図」、「啓示」とも言えるようなものを感じざるを得ません。このことこそ、これまでの腸内細菌学の分野においてビフィズス菌を対象とした研究業績が非常に多いことの所以かと思えます。しかしながら、近年のオミックス解析技術、すなわち「森を見て木をみる」サイエンスの目覚ましい発展・普及によって、一部の細菌群ではなく多種多様な腸内細菌間の相互作用がヒトの健康に影響を与えていることが明らかとなってきています。このことを踏まえ、これからのビフィズス菌を対象とした研究は、ビフィズス菌を腸内細菌叢とヒトの健康をつなぐ「1水先案内人」としてとらえ、本菌のヒト腸内での生態や働きを詳らかにする中で、これらに関わる機序が他の腸内細菌にもあるのでは、あるいはそれらの菌と協働してはじめて成立するのでは、と腸内細菌叢の全体像の把握に資する、即ち「木を見て森を見る」取り組みが必須と私たちは考えております。

この考え方に基づく新たな切り口でのビフィズス菌の研究を推進すべく、私たちは任意団体「ビフィズス菌研究会」を設立し、この設立を記念する第1回シンポジウムを来年3月に開催する運びとなりました。現在、この研究会の存在とその活動を出来るだけ多く方々に周知していただくために、本研究会のホームページをWeb上に掲載する企画、および第1回シンポジウム（対面とオンラインのハイブリット形式）の開催企画を粛々と進めております。つきましてはこの研究会の活動をより一層周知・充実したものとするため、ご支援とご援助をたまわりますよう特段のご高配をお願い申し上げます次第でございます。

謹白

研究会概要

1. 会の名称：ビフィズス菌研究会
2. 研究会代表：大澤 朗（神戸大学大学院農学研究科教授）
3. 設立日：令和3年1月4日（月）
4. 会設立の目的と意義：
本会は主にビフィズス菌を対象とした研究及び関連領域の研究の公表、討議を行うことによって、ヒトの健康に資する科学の進歩に寄与し、社会に貢献することを目的とする。
5. 事務局：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院生命科学研究科 統合生命科学専攻応用生物機構学講座内
6. 事務局長（兼会計）：片山高嶺（京都大学大学院生命科学研究科教授）
7. 学術集会：毎年度に1回程度は然るべき場所での対面式、あるいは Web によるオンライン形式にてシンポジウムを開催する。ちなみに第1回シンポジウムは、令和3年3月12日（金）にオンライン形式にて開催予定
8. ホームページ：本研究会のシンポジウムの事前案内・事後報告、ビフィズス菌研究に関する会員の持ち込み情報、関連学会の企画や学会誌掲載情報のピックアップ紹介等の掲載を予定

★ ビフィズス菌研究会 設立記念

★ ビフィズス菌研究会 第1回シンポジウム

開催日時：令和3年3月12日(金) 10:00~17:00

開催方式：「Zoom」によるオンライン会議形式

ビフィズス菌を通して観る
腸内細菌の世界



講演予定者 (順不同・敬称略)

西山 啓太 (慶応大学)

吹谷 智 (北海道大学)

★ 阪中 幹祥 (京都大学)

藤田 清貴 (鹿児島大学)

加藤 紀彦 (京都大学)

川崎 信治 (東京農業大学)

鈴木 徹 (岐阜大学)

吉本 真 (森永乳業株式会社)

藤原 慎 (株式会社 明治)

松木 隆広 (株式会社 ヤクルト本社)

司会・進行

大澤 朗 (神戸大学) 片山 高嶺 (京都大学)

オンライン参加申込要領：件名「オンライン参加申込み」で、本文に参加される方(複数可)の所属・氏名・住所・TELをご記入の上、事務局(bifido.symposium@gmail.com)宛にメールにてお申し込みください。

※参加費は2000円です(銀行振込)

